



JPRS
JAPAN REGISTRY SERVICES

10年の歩み
HISTORY OF 10 YEARS

創立10周年のごあいさつ

株式会社日本レジストリサービス
代表取締役社長 東田 幸樹



JPRSは、2010年12月26日に創立10周年を迎えることができました。

これもひとえに、ドメイン名の登録者の方々、指定事業者の方々をはじめ、平素より格別のご高配とご支援をいただいております多くの方々のおかげであり、心から御礼申し上げます。

2001年2月から登録を開始した汎用JPDメイン名は、2011年1月現在で約80万件のご登録をいただくまでになり、JPDメイン名全体の登録数は約120万件となりました。DNSも、2001年1月には6拠点でしたが、世界中への分散配置を進め、2011年1月では26拠点へと拡充し、10年間無事故・無停止で運用し続けてきています。セキュリティ企業の米国マカフィー社からは、世界で最も安全なccTLDであるという評価を、2年連続で得ることができました。これらはすべて、皆さまとともに築いてきた成果であると考えています。

JPRSは、設立の際に託された役割を「ネットワークの基盤を支える企業として、インターネットの発展に寄与し、人と社会の豊かな未来を築くことに貢献します」という企業理念として常に掲げてきました。

10周年の節目を迎え、JPRSは日本のインターネットコミュニティから託されたこの大切な理念のもと、JPDメイン名のレジストリとしてよりよいサービスを追求し続けることはもちろんのこと、豊かな未来のためにさらに何ができるのかを考え、新しい領域へのチャレンジを続けていく決意を新たにしております。

この10年間、皆様からの温かいご指導、お力添えを頂き、誠にありがとうございました。引き続き倍旧のご高配を賜りますようお願いいたします。

企業理念

「JPRSは、ネットワークの
基盤を支える企業として、インターネットの
発展に寄与し、人と社会の豊かな未来を
築くことに貢献します。」

■インターネットの基盤を支え、豊かな未来を築く

今や現代社会を支える重要な基盤の一つとなったインターネット。中でもドメイン名はインターネットにアクセスする際の鍵となる不可欠なものです。株式会社日本レジストリサービス(JPRS)は、ドメイン名の登録管理と、ドメインネームシステム(DNS)の運用を通して、インターネットの基盤を24時間×365日支えています。

■ドメイン名関連技術とJPドメイン名の価値創造を通して、 社会に貢献する

ドメイン名の登録管理とDNSの運用を、より安定的で信頼性の高いものにするためには、最新の高度な技術が欠かせません。さらに、ドメイン名の運用で培ったDNS関連技術を応用して、新しいサービスを社会へ提供することも、ネットワークの基盤を支える企業としての重要な課題と考えます。そのため、私たちJPRSは、新技術の開発や研究にも日々積極的に取り組んでいます。

また、JPドメイン名は日本国内だけではなく、世界中から利用できます。そのため、JPRSは「JPドメイン名」が、日本のみならずグローバルなコミュニティにとって、より利用しやすく価値の高いものとなるように、サービスの改善・開発、プロモーション活動などに取り組んでいます。

■ネットワークの基盤を支える企業としての責任

私たちは、ネットワークの基盤を支える企業として、その重要性を認識し、期待に応えるため、様々な方策を講じ、信頼性の向上に努めています。さらに、国内外のインターネット関連組織や日本国政府と十分な連携をとって、インターネットの発展に寄与しています。

JPRSは今後も、社会にいっそう貢献できるよう、さらなる努力を続けていきます。

10年の歩み

1989年 1991年 1993年 1997年	属性型JPDメイン名運用開始 日本ネットワークインフォメーションセンター (JNIC) 設立 任意団体JPNICへ改組 JPNICが社団法人化
2000年12月22日	JPNIC第11回総会においてJPRSの設立を決議 <p>JPDメイン名は世界で最も早い時期に運用が始まったccTLDのひとつであり、このJPDメイン名を管理する組織として1991年にJPNICの前身であるJNICが設立されて以来、JPNICがJPDメイン名の登録管理とDNSサーバの運用を担っていました。そしてJPNICは、「co.jp」や「or.jp」などの組織種別に対応する属性や、1組織1ドメイン名という枠組み、登録料という料金制度など、先進的なサービスを世界に先駆けて導入してきました。</p> <p>しかし、1990年代にインターネットが社会的に重要なものと位置付けられていく中で、サービスの品質、特にインターネットの安定運用に必要なDNSの信頼性・安定性への要求にどのように応えていくのかが、大きな課題となりました。</p> <p>1990年代後半、ドメイン名のサービスはTLD間の競争時代に突入していました。そして、インターネットに対する社会的要求が急速に増す中、それまでのJPDメイン名のサービスモデルでは、ドメイン名に対する急速なニーズの変化を受け止めきれず、登録要件がいち早く緩和された.comや.netなどのgTLDを使用する事例が増えていきました。</p> <p>急速に変化するドメイン名のニーズに応えるためのサービスは何か。変化し続ける社会の中でよりよいサービスを提供し続け、さらに時代に合った新しいビジネスやサービスを創り出していくための枠組みは何か。</p> <p>日本のインターネットコミュニティの出した答えが、登録要件を緩和した汎用JPDメイン名の導入と、日本のインターネット基盤を支える民間企業を設立し、そこに最初のミッションとしてJPDメイン名事業を移管することでした。</p> <p>そして2000年12月22日、JPNICの第11回臨時総会においてJPRSの設立が決議されたのです。</p>
12月26日	株式会社日本レジストリサービス (JPRS) 設立
2001年 2月22日	汎用JPDメイン名の優先登録申請受付を開始
3月29日	汎用JPDメイン名の同時登録申請受付を開始
5月 7日	汎用JPDメイン名の先願登録申請受付を開始
6月 6日 } 8日	Interop Tokyoへの参加を開始 <p>最先端の技術とソリューションのイベントである Interop Tokyo へ(2001年当時は「NetWorld+Interop」)のブース出展を行い、ドメイン名とDNSに関する情報を提供しました。以降、毎年活動を継続しています。</p>



出展ブースの様子

社会のおもな出来事

2000年 2月17日 Microsoft Windows 2000発売	2000年12月 1日 BSデジタル放送開始
2000年 7月19日 二千円札発行	2000年12月12日 地下鉄大江戸線開通
2000年 9月15日 シドニーオリンピック開幕	2001年 9月 4日 東京ディズニーシー開園

2001年10月 1日	<p>全日本中学高校Webコンテスト「ThinkQuest JAPAN」への支援を開始</p> <p>インターネット教育支援活動として、学校インターネット教育推進協議会が主催するWeb教材開発コンテスト「ThinkQuest JAPAN」へ協賛社として支援を行いました。以降、毎年活動を継続し、参加チームへのJPDメイン名の無償提供、JPRS特別賞の提供を行っています。</p>
12月 3日 7日	<p>Internet Weekへの協賛・参加を開始</p> <p>インターネットの普及・促進・発展に貢献するという趣旨に賛同し、イベントへの協賛、ブース出展による情報提供を行いました。また、メインプログラムやチュートリアル講師を多く引き受けるなど、コンテンツへの貢献も積極的に行いました。以降、毎年活動を継続しています。</p>
2002年 2月28日	<p>ICANNとの間で.jpのccTLDスポンサ契約を締結</p> <p>ccTLDスポンサ契約は、JPRSが日本のccTLDである「.jp」のレジストリであることを記したものです。JPRSにはグローバルそして日本のインターネットコミュニティの利益を実現すべくJPDメイン名を登録管理し、DNSを運用するという責務があることが明示され、JPNICと政府がこれを確認するという枠組みとなっています。ICANNとのccTLDスポンサ契約の締結は、2001年10月のオーストラリアに続き、日本のJPRSが世界で2例目となりました。</p>
3月 1日	<p>JPDメイン名諮問委員会を設置</p> <p>JPDメイン名登録管理業務の公平性および中立性を担保する仕組みとして、JPRS内にJPDメイン名諮問委員会を設置しました。さまざまな観点を持つJPRS社外の委員で構成され、JPDメイン名登録管理業務の方針に関する多くの検討を行ってきています。</p>
4月 1日	<p>JPDメイン名登録管理業務のJPNICからJPRSへの移管完了</p> <p>JPRSとICANNとのccTLDスポンサ契約締結を受けて、JPDメイン名の登録管理業務をJPNICからJPRSへ移管するプロセスが完了しました。</p>
4月 1日	<p>JPRSの大橋由美がAPTLDの理事に就任</p> <p>JPRSの大橋由美が、アジア太平洋地域のccTLD連合組織であるAPTLDの理事に就任しました。</p>
5月	<p>「DNS運用健全化タスクフォース」を設立</p> <p>誤ったDNSの設定によって起こる不具合を防ぐため、JPRS、JPNIC、WIDEプロジェクトの3者が共同で「DNS運用健全化タスクフォース」を設立しました。タスクフォースではDNSの設定状況を観測・分析した結果の公開や、正しい設定方法や注意点などの情報提供活動を行い、インターネット全体の健全なDNS運用に貢献しました。</p>

社会のおもな出来事

2001年 9月11日 アメリカ同時多発テロ事件発生	2001年 11月18日 Suicaサービス開始
2001年 10月25日 Microsoft Windows XP発売	2002年 2月 8日 ソフトレイクシティオリンピック開幕
2001年 11月17日 初代iPod発売	2002年 5月28日 日本経済団体連合会 (日本経団連)発足

2002年10月 1日	<p>地方公共団体向けの新たな属性型JPドメイン名として「LG.JP」を導入</p> <p>2003年の電子政府・電子自治体の実現に合わせ、地方公共団体が登録するためのドメイン名「LG.JP」を新設し、登録を開始しました。</p>
2003年 1月 1日	<p>JPドメイン名の累計登録数が50万件を突破</p>
5月26日	<p>IPv6普及度測定の共同研究を開始</p> <p>IPv6ネットワークの普及指標としての活用を目的とし、株式会社インテック・ネットワークアと共同で、JPドメイン名におけるIPv6の普及度を調査、発表しました。</p>
7月10日	<p>日本語JPドメイン名のサービスをRFC準拠に移行</p> <p>2003年3月、JPRSを含む多くの技術者の議論の成果として国際化ドメイン名(IDN)の規格がRFCとして発行されました。その後、他のccTLDの関係者とともにIDN運用のガイドライン策定を進め、7月にRFC準拠へと移行しました。</p>
8月 5日	<p>災害時や非常時に備えたJP DNSの分散運用を開始</p> <p>JPRSはWIDEプロジェクトと共同で、JP DNSの東京と大阪における本格的な分散運用を開始し、より高い可用性を提供することが可能になりました。</p>
9月10日	<p>ENUMトライアルジャパン設立</p> <p>JPRSは、JPNIC、WIDE Projectとともに技術実験団体「ENUMトライアルジャパン(ETJP)」の設立に発起人として参画しました。ENUMは、電話番号を用いてインターネット上の様々な通信サービスへの統一的なアクセスを可能とする技術です。</p>
2004年 2月 2日	<p>JP DNSへのIP Anycast導入開始</p> <p>IP Anycastの導入により、同じIPアドレスを持つDNSサーバーを複数拠点に分散配置することが可能となり、より高品質なサービスの提供、高負荷への対応、耐障害性の向上などの効果が得られるようになりました。</p>
3月 2日	<p>ICANN ccNSOへ参加</p> <p>JPRSは、ICANNの活動を支える支持組織の一つである、ccNSO(the Country-Code Names Supporting Organization)の設立に参加しました。また、2004年6月より、JPRSの堀田博文がICANN ccNSO評議委員として活動しています。</p>
7月 6日	<p>「JPドメイン名レジストリレポート」を公開</p> <p>JPドメイン名の登録管理業務に関する年次報告書『JPドメイン名レジストリレポート』を公開しました。以降、毎年公開しています。</p>
7月21日	<p>JPドメイン名がTLDとして世界で初めてIPv6に完全対応</p> <p>JP DNSサーバーのIPv6アドレスがルートサーバーに登録されました。これにより、日本におけるインターネットのIPv6化が大きく前進しました。</p>
2005年 4月 1日	<p>JPドメイン名登録管理サービスを「個人情報保護法」に対応</p> <p>2005年4月1日からの「個人情報保護法」の完全施行にあわせ、JPドメイン名の登録管理に関する各種規則文書の改訂、および情報の公開範囲や手続きの見直しなどを行いました。</p>



社会のおもな出来事

2002年 8月 5日 住民基本台帳ネットワーク開始	2003年11月 1日 ICOCAサービス開始
2003年 4月 1日 郵政事業庁が日本郵政公社へ	2004年 4月 1日 営団地下鉄から東京メトロへ
2003年 4月25日 六本木ヒルズオープン	2004年 5月10日 Winny開発者逮捕

2005年 6月 1日	<p>Hosting-Proに参加</p> <p>レンタルサーバー・ホスティング関連業界を対象とした交流イベント「Hosting-Pro」に、JPドメイン名で業界を支える立場から主催者の一員として参加し、ドメイン名に関する世界的な状況やDNSの最新動向などの情報をセミナー形式で提供しました。以降、毎年活動を継続しています。</p>
6月 2日	<p>JPRSの森下泰宏が、DNSサーバーのIPv6対応に必要な情報を提供するRFCを執筆</p> <p>JPRS の森下泰宏と神明達哉氏(株式会社東芝、当時)の共著による RFC (RFC 4074 : "Common Misbehavior Against DNS Queries for IPv6 Addresses") が発行されました。</p>
11月 1日	<p>JPRS WebサイトがIPv6対応</p> <p>IPv6ネットワークの普及活動の一環として、JPRS自身のWebサイトにIPv6で接続できる環境を整えました。</p>
12月 5日	<p>DNSサーバーの不適切な設定による危険性解消に向けた措置を実施</p> <p>DNSサーバーの不適切な管理が引き起こす危険性解消に向け、管理権限を第三者が取得する危険性のある、DNSサーバー設定の削除を実施し始めました。</p>
12月20日	<p>WIDEプロジェクトとRoot DNSサーバーの共同運用を開始</p> <p>M-root DNSサーバーの運用にJPRSも参加し、WIDEプロジェクトとの共同運用を開始しました。M-rootサーバーは、世界に13あるRoot DNS サーバーの一つで、世界中のインターネットの根幹を支えています。</p>
2006年 3月 1日	<p>JPドメイン名の累計登録数が80万件を突破</p>
4月 3日	<p>JP DNSの更新間隔を15分に1回へ大幅短縮</p> <p>JPドメイン名用DNS (JP DNS) の登録情報の更新間隔を従来の1日1回から、15分に1回へと大幅に短縮したことで、JPドメイン名は、登録後すぐにインターネット上で利用することが可能となりました。</p>
11月 1日	<p>汎用JPドメイン名の累計登録数が50万件を突破</p>
2007年 1月 1日	<p>「CO.JP」ドメイン名の累計登録数が30万件を突破</p>
3月 1日	<p>汎用JPドメイン名へ登録回復手続きを導入</p> <p>汎用JPドメイン名を誤って廃止申請した際に、ドメイン名廃止後の一定期間内であれば、そのドメイン名を廃止直前の登録状態に回復できる手続きを導入しました。</p>
6月14日 ～ 15日	<p>「北京宣言」7つのccTLDレジストリが健全な情報社会の構築に向けて声明</p> <p>7つのccTLDレジストリが北京で会合を開き、今後も協力してccTLDレジストリとして健全な情報社会に貢献することを声明として宣言しました。</p>



北京宣言(写真提供:CNNIC)

社会のおもな出来事

2004年 8月13日 アテネオリンピック開幕	2005年 3月25日 愛・地球博開幕
2004年10月 1日 イチロー、メジャーリーグ年間最多安打記録更新	2006年 2月10日 トリノオリンピック開幕
2004年12月 2日 ニンテンドーDS発売	2006年10月24日 ナンバーポータビリティ開始

- 2007年 8月 1日** **工業高校の教職員向けの「インターネット講座」を開催**
 (社)全国工業高等学校長協会が主催する工業高校教諭向けの夏季講習会にインターネット教育支援の観点から協力し、講座「すぐに役立つ!インターネットにおける脅威と対策」を開催しました。
- 
- 講習会の様子
- 11月16日** **JPRSの佐藤新太がICANN SSACメンバに就任**
 JPRSの佐藤新太が、ICANNの諮問委員会の一つ、セキュリティと安定性に関する諮問委員会(SSAC)のメンバに就任しました。
- 12月 4日** **WIDE ProjectとJPRSがJP DNSサーバー「e.dns.jp」を増強**
 WIDE ProjectとJPRSは、JP DNSのさらなる信頼性向上のため、JP DNSサーバー「e.dns.jp」に海外拠点を追加、IP Anycast技術の導入を行いました。
- 2008年 3月 1日** **JPDメイン名の累計登録数が100万件を突破**
- 2009年 3月 4日** **JPRSの藤原和典が、ENUMの標準化を推進するRFCを執筆**
 JPRSの藤原和典と英Roke Manor Researchのローレンス・コンロイ氏の共著によるRFC(RFC 5483: "ENUM Implementation Issues and Experiences")が発行されました。
- 4月 2日** **JPRSの藤原和典と米谷嘉朗が、国際化電子メールアドレスの規格を定めるRFCを執筆**
 JPRSの藤原和典と米谷嘉朗の共著によるRFC(RFC 5504: "Downgrading mechanism for Email Address Internationalization")が発行されました。
- 4月22日** **「BIND 10」の開発プロジェクト参画を発表**
 インターネットのさらなる安定運用に貢献するため、米国インターネット・システムズ・コンソーシアム(ISC)が開始する、次期DNSソフトウェア「BIND 10」の開発プロジェクトに参画しました。
- 9月 7日** **JPDメイン名の理解・活用促進を目的としたゲームサイト「総統の夢.jp」を開設**
 一般ユーザーのJPDメイン名に対する理解と利用の促進を目的に、人気アニメ作品「秘密結社 鷹の爪」とタイアップしたゲームを通して、JPDメイン名について楽しみながら学べる特設Webサイト「総統の夢.jp」(<http://総統の夢.jp/>)を開設しました。
- 
- 総統の夢.jp
- 12月 2日** **JPDメイン名が、世界で最も安全な国別ドメインと評価**
 「.jp」は、McAfee,Inc.が12月2日に発表した調査報告書「危険なWebサイトの世界分布」の中で、世界で最も安全な国別ドメイン(ccTLD)であると評価されました。
- 2010年 4月14日** **JPRSの藤原和典が、国際化電子メールアドレスの標準化を推進するRFCを執筆**
 JPRSの藤原和典とHuawei Technologiesのバリール・レイバ氏の共著によるRFC(RFC 5825: "Displaying Downgraded Messages for Email Address Internationalization")が発行されました。

社会のおもな出来事

2006年11月11日 プレイステーション3発売

2007年 1月 9日 初代iPhone発売

2007年 1月30日 Microsoft Windows Vista発売

2008年 3月13日 円高が進み、1ドル100円を下回る

2008年 8月 8日 北京オリンピック開幕

2008年12月12日 Google Chrome公開

2010年 5月25日	全国の中学・高校に「インターネットの仕組み」について学べる教材を無償配布
	<p>インターネット関連教育支援活動の一環として、全国の中学・高校・高専を対象に教材を無償で配布しました。</p>
	
	<p>ボン太のネットの大冒険</p>
6月15日	JPRSの米谷嘉朗がIETF PRECISワーキンググループの共同議長に就任
	<p>PRECISワーキンググループは、インターネットプロトコルの国際化を推進するための共通基盤となる分野を担当するために新たに設置されたもので、国際化ドメイン名の第一人者である米谷が共同議長に就任し、活動推進の役割を担っています。</p>
6月17日	JPRSの民田雅人がICANNのルートゾーンDNSSEC運用に参画
	<p>JPRSの民田雅人が、ICANNのルートゾーンへのDNSSEC導入に伴い新設されたTrusted Community Representatives (TCR) に選出されました。TCRとは、世界のインターネットコミュニティの代表として、ルートゾーンへのDNSSECの導入に伴うHSM (DNSSECに使用する鍵を生成・保管する機器) の稼働、キーセレモニー (鍵の生成・更新する手続き) への参加の役割を担うものです。</p>
7月 8日 〜 9日	JPRSがホストを務める「JANOG26ミーティング」が開催 <p>これまでもJANOGミーティングのスポンサーとしてその活動の支援や、DNS関連技術の発表など、積極的な参加を行ってきましたが、ミーティング会場の提供や運営のサポートなど、イベントホストとして「JANOG26ミーティング」に貢献しました。</p>
7月15日	国際化ドメイン名ツールキット2.0リリース
	<p>国際化ドメイン名ツールキット2.0(idnkit-2.0)をリリースしました。idnkitは、サイト運用者向けのツールと、アプリケーション開発者向けのAPIを提供します。</p>
8月17日	JPRSが「.日本」管理運営事業者の公募に対し、申請書を提出
	<p>日本インターネットドメイン名協議会による「.日本」の管理運営事業者の公募に対し、申請書を提出しました。同年10月には、日本インターネットドメイン名協議会より、JPRSを「.日本」の管理運営事業者として選定したという内容の通知を受領しました。</p>
10月27日	2年連続でJPドメイン名が、世界で最も安全な国別ドメインと評価
	<p>「.jp」は、McAfee, Inc.が10月26日に発表した調査報告書「危険なWebサイトの世界分布2010」において、2年連続で世界で最も安全な国別ドメイン(ccTLD)であると評価されました。</p>
2011年 1月16日	JPドメイン名サービスにDNSSECを導入
	<p>JPドメイン名のセキュリティレベルの向上を目的として、JPドメイン名サービスにDNSSECを導入しました。</p>

社会のおもな出来事

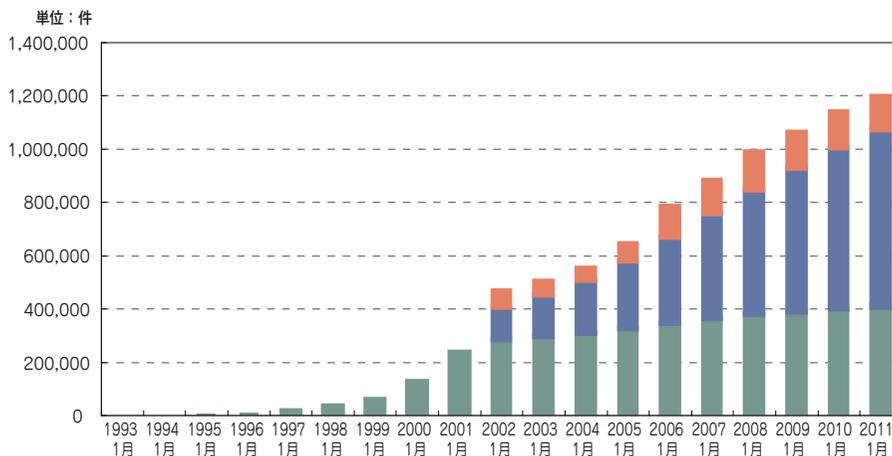
2008年 9月15日 リーマンブラザーズ経営破綻
 2009年 1月20日 バラク・オバマ、米大統領就任
 2009年 9月16日 鳩山由紀夫、総理大臣就任
 民主党政権へ

2009年10月22日 Microsoft Windows 7発売
 2010年 2月12日 バンクーバーオリンピック開幕
 2010年10月13日 チリ鉱山落盤事故、全員救出

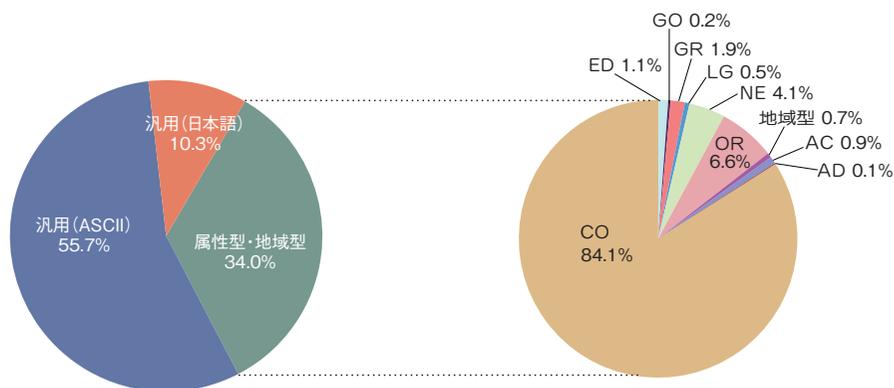
統計データ

■ JPDメイン名累計登録数の推移

2008年3月1日時点で、JPDメイン名全体の累計登録数が100万件を達成しました。
2011年1月1日時点で、JPDメイン名全体の累計登録数は、1,198,105件となっています。



■ JPDメイン名累計登録数の内訳



単位：件

JP ドメイン名種類		2011年1月1日登録数
属性型 地域型 JPドメイン名	AC：大学など高等教育機関	3,512
	AD：JPNIC会員	275
	CO：企業	342,055
	ED：小中高校など初等中等教育機関	4,581
	GO：政府機関	751
	GR：任意団体	7,627
	LG：地方公共団体	1,849
	NE：ネットワークサービス	16,685
	OR：企業以外の法人組織地域型	26,855
	地域型	2,666
汎用JP ドメイン名	ASCII	667,538
	日本語	123,711
JPドメイン名 登録数計		1,198,105

会社概要

会 社 名	株式会社日本レジストリサービス Japan Registry Services Co.,Ltd. (JPRS)
設 立	2000年12月26日
本 社	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-8-1 千代田ファーストビル東館13F TEL : 03-5215-8451 FAX : 03-5215-8452

JPRS10年の歩み

文中に記載されている会社名、製品名は各社の商号、登録商品あるいは商標です。
本文中では、(R)TMマークなどの記載を省略しています。

2011年2月1日 初版 第1刷

2011年4月1日 第2版 第1刷

発行 株式会社日本レジストリサービス

Copyright©2011 株式会社日本レジストリサービス



株式会社日本レジストリサービス

<http://jprs.co.jp/>